

令和4年度

事業報告書

学校法人君津学園

令和4年度 事業報告書

I	法人の概要	
	1、設置する学校の内容	----- 2
	2、学校法人の沿革	----- 3
	3、役員等に関する事項	----- 4
	① 理事、監事に関する事項	
	② 評議員に関する事項	
	4、学校法人君津学園組織図	----- 6
II	事業の概要	
	1、教育活動に関する事項	-----7
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	③ 木更津総合高等学校に関する事項	
	④ 市原中央高等学校に関する事項	
	⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項	
	2、研究に関する事項	-----14
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	3、キャンパス等充実にに関する事項	-----17
III	財務の概要	
	1、財務の経年比較	-----18
	2、借入金の状況	-----21

I 学校法人の概要

フリガナ 学校法人名	所在地
学校法人 キミツガクエン 君津学園	〒292-8511 千葉県木更津市東太田3丁目4番1号
大臣認可年月日 昭和42年1月23日	TEL : 0438(30)5500

1、設置する学校の内容

(令和4年5月1日現在)

学校名 (所在地)	学部 学科等名	開設 年度	入学 定員	志 願 数	入 学 数	入学定員 充足率	収 容 員	現 員	収容定員 充足率
清和大学 (千葉県木更津市東太田3丁目4番5号)	法学部 法律学科	H6	190	185	164	86.0%	760	788	104.0%
清和大学短期大学部 (千葉県木更津市東太田3丁目4番2号)	こども学科	S42	80	78	76	95.0%	160	156	98.0%
木更津総合高等学校 (千葉県木更津市東太田3丁目4番1号)	全日制課程 普通科	H15	720	2,213	703	98.0%	2,160	1,897	88.0%
市原中央高等学校 (千葉県市原市土宇1481)	全日制課程 普通科	S58	350	1,192	253	72.0%	1,050	670	64.0%
清和大学附属八重原幼稚園 (千葉県君津市南子安1377番地)		S43	-	-	-	-	340	208	61.0%
清和大学附属畑沢幼稚園 (千葉県木更津市畑沢3丁目9番1号)		S46	-	-	-	-	270	161	60.0%
清和大学附属金田幼稚園 (千葉県木更津市中島1250番地)		S52	-	-	-	-	165	116	70.0%

2、学校法人の沿革（概要）等

学 校 法 人 の 沿 革 （ 概 要 ）		
昭和21年	4月	木更津市に英語講習所開設
昭和24年	2月	各種学校君津学院設立
昭和26年	4月	木更津高等家政女学校設立
昭和35年	8月	学校法人君津学園設立認可
昭和38年	4月	木更津中央高等学校設立
昭和42年	4月	清和女子短期大学幼児教育科設立
昭和43年	4月	清和女子短期大学附属八重原幼稚園設立
昭和46年	4月	清和女子短期大学附属畑沢幼稚園設立
昭和48年	4月	木更津高等家政女学校を廃止し、清和女子短期大学附属高等学校設立
昭和51年	4月	清和女子短期大学幼児教育科を児童教育学科に変更
昭和52年	4月	清和女子短期大学附属金田幼稚園設立
昭和58年	4月	市原中央高等学校設立
平成2年	1月	君津学園家政専門学院廃止
平成5年	12月	清和大学法学部法律学科設置認可
平成6年	4月	清和大学法学部法律学科開学
平成15年	4月	木更津中央高等学校・清和女子短期大学附属高等学校廃止
平成15年	4月	木更津総合高等学校設置認可
平成15年	4月	清和女子短期大学を清和大学短期大学部に校名変更
平成15年	4月	清和女子短期大学附属幼稚園を清和大学附属幼稚園に園名変更
平成17年	4月	清和大学短期大学部児童教育学科を児童総合学科に名称変更
平成18年	4月	清和大学法学部法律学科に教職課程を設置
平成30年	4月	清和大学法学部法律学科昼夜開講制を廃止
平成30年	4月	清和大学短期大学部児童総合学科をこども学科に名称変更
令和2年	4月	清和大学附属金田幼稚園が施設型給付幼稚園に移行（園名変更なし）
令和3年	4月	清和大学附属金田幼稚園が認定こども園に移行（園名変更なし）

3、役員等に関する事項

① 理事、監事に関する事項

(令和4年7月1日現在)

区別・職名		フリガナ 氏名	性別	常勤・ 非常勤	現職	住所	就任年月日 (重任年月日)	選任区分
理事	理事長	マイタ リュウタロウ 真板 竜太郎	男	常勤	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	平成11年9月27日 (R01.12.01)	第2号(短大学長)
理事	副理事長	マイタ ヨウスケ 真板 陽介	男	常勤	学校法人君津学園事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	平成27年11月27日 (R01.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		オダ キョウイチ 織田 恭一	男	常勤	清和大学学長	千葉県木更津市	平成26年11月1日 ()	第1号(大学学長)
理事		ツネズミ リョウヘイ 常澄 良平	男	非常勤	NPO法人代表	千葉県市原市	平成30年2月23日 (R01.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		トリウミ タカミツ 鳥海 高 充	男	非常勤	カギサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	平成16年12月25日 (R01.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		ヨンドウ イクコ 近藤 郁子	女	非常勤	ピアノ教師	千葉県木更津市	平成20年3月1日 (R01.12.01)	第4号(理事会選任)
理事		アンザイ ヨウキチ 安西 要吉	男	非常勤	学校職員	千葉県木更津市	令和1年12月1日 ()	第4号(理事会選任)
監事		ミカミ カツヒコ 三上 勝彦	男	非常勤	無職	千葉県木更津市	令和2年6月1日 ()	
監事		カタヤマ フタル 片山 渉	男	非常勤	無職	千葉県木更津市	令和1年6月1日 ()	

＜理事＞		＜理事選任条項＞	
定数	7人	第9条第1項第1号	清和大学の学長
実数	常勤	第9条第1項第2号	清和大学短期大学部の学長
	非常勤	第9条第1項第3号	評議員のうちから評議員の互選によって定められた者
	計	第9条第1項第4号	この法人に功労のあった者または学識経験者のうちから前各号に規定する理事の過半数以上をもって選任された者

＜監事＞		＜選任条項別定数実数＞		＜令和3年度中の理事会開催状況＞		
定数	2人	区分	定数	実数	定例	2回
実数	常勤	1号	1人	1人	臨時	2回
	非常勤	2号	1人	1人	計	4回
	計	3号	3人	3人		
		4号	2人	2人		

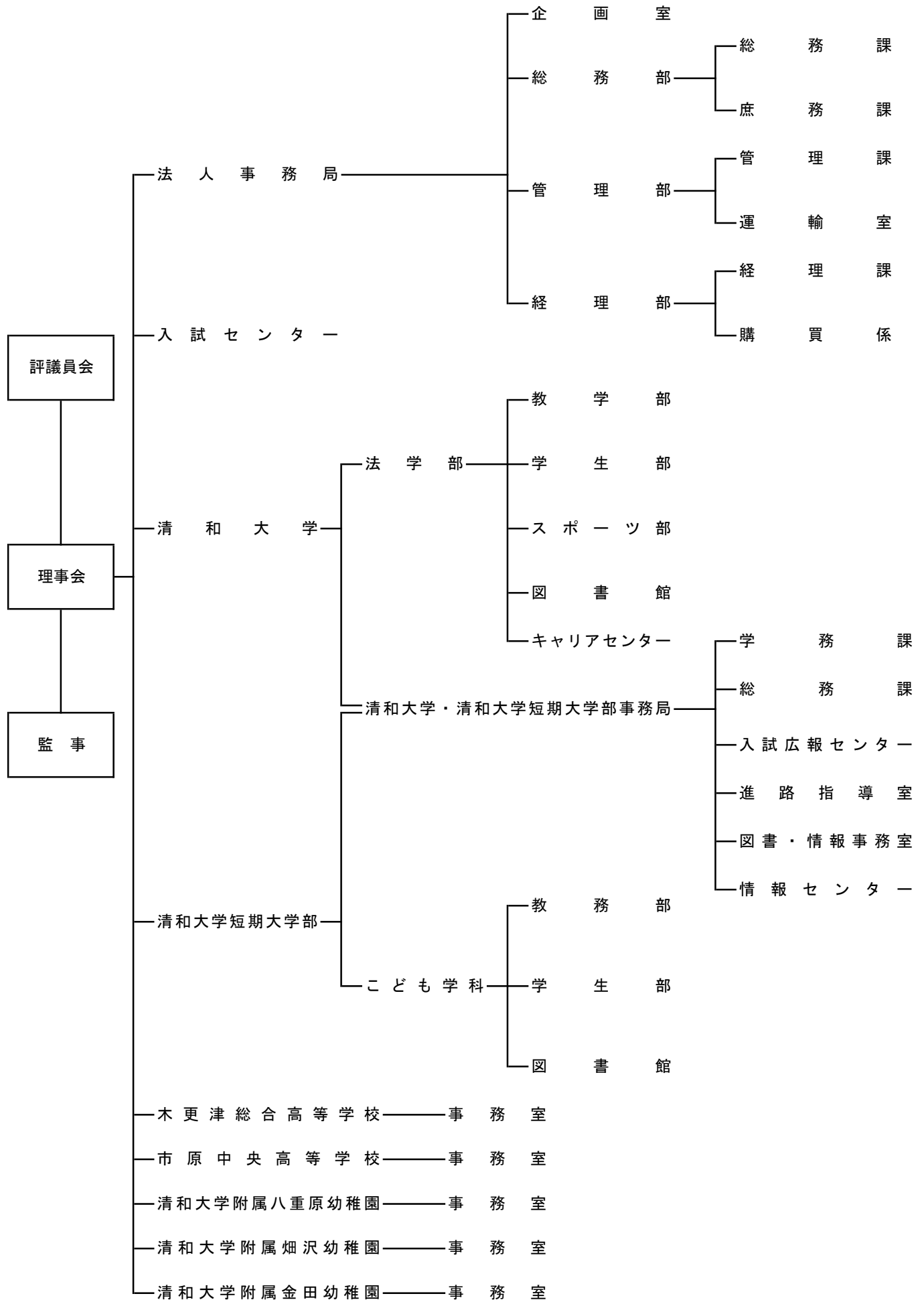
② 評議員に関する事項

(令和4年7月1日現在)

＜評議員の構成＞				＜選任条項別定数実数＞			＜評議員選任条項＞			
定数	15～20		人	区分	定数	実数	第16条第1項第1号			
実数	常勤	4	人	1号	1人	1人	清和大学の学長			
	非常勤	12	人	2・5号	1人	1人	清和大学短期大学の学長			
	計	16	人	3・4号	1人	1人	清和大学の法学部長			
				6号	1～2人	1人	清和大学の教学部長			
				7号	2～3人	2人	木更津総合高等学校の校長			
				8号	4～5人	4人	この法人の職員のうちから理事会において選任された者			
				9号	2～3人	2人	理事のうちから理事会において選任された者			
				10号	3～4人	4人	この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25歳以上の者のうちから理事会において選任された者			
							この法人の設置する学校の在学者の父兄若しくは保護者のうちから理事会において選任された者			
							この法人に係る学識経験者および功労者で前各号に規定する評議員の過半数以上をもって選任された者			
＜令和3年度中の評議員会開催状況＞										
定例		2	回							
臨時		3	回							
計		5	回							
フリガナ氏名	性別	現職	住所	就任		選任区分等				
				就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分			
マイタリユウタロウ 真板竜太郎	男	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	H26.4.1 H26.11.1		1項2号 1項5号	短大学長 木更津総合高等学校校長			
マイタ ヨウスケ 真板 陽介	男	君津学園法人事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	H26.4.1	R2.8.1	1項6号	法人職員のうち理事会選任			
オダ キョウイチ 織田 恭一	男	清和大学学長	千葉県木更津市	H26.11.1		1項1号	清和大学学長			
テツカ イチロウ 手塚 一郎	男	清和大学法学部長 清和大学教学部長	千葉県千葉市	R3.4.1		1項3号 1項4号	法学部長 教学部長			
アンザイ ヨウキチ 安西 要吉	男	学校職員	千葉県木更津市	R1.12.1	R2.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任			
シンドウ イクコ 近藤 郁子	女	ピアノ教師	千葉県木更津市	H20.3.1	R2.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任			
アキタ ショウゾウ 秋元 昇三	男	無職	千葉県君津市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任			
スズキ マサヒコ 鈴木 雅彦	男	自営業	千葉県袖ヶ浦市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任			
クロカワ ユタカ 黒川 豊	男	旅館業代表取締役	千葉県富津市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任			
イノウエ ユウジ 井上 裕二	男	学校職員	千葉県袖ヶ浦市	R2.8.1		1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任			
オガワ シュンキ 小川 喜之	男	自営業	千葉県富津市	R4.6.1		1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任			
シンドウ ナオヒロ 近藤 直弘	男	(株)コンドー楽器	千葉県木更津市	R2.5.28	R2.8.1	1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任			
トリウミ タカミツ 鳥海 高充	男	カギサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	H16.12.25	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任			
ツネズミ リョウヘイ 常澄 良平	男	NPO法人代表	千葉県市原市	H30.2.23	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任			
ヤマダ チカシ 山田 千樫	男	無職	千葉県市原市	S62.9.5	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任			
ヤマダ トシエ 山田 敏江	女	無職	千葉県市原市	H11.12.1	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任			

4、学校法人組織機構図

令和4年7月1日現在



II 事業の概要

1、教育に関する事項

① 清和大学に関する事項

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業の実施スタイルに応じて、遠隔授業と対面授業を併用する体制を構築した。感染症対策の一環で開始した遠隔授業であったが、対面授業にはない利点も多く確認されたため、学則改正を行った上で、一部の授業科目において継続して遠隔授業を実施することとなった。同一学期に同一科目で異なる授業形態で開講することにより、学生達は、いずれの授業形態も選択することができ、受講者の多様なニーズに応えることが可能となった。

また、本年度は、現行のカリキュラムにおける学生対応について見直しを図るべく、諸規則の整備を行った年であった。現行制度について、明文化を図るとともに、各規定を整理したことにより、学生にとっては理解しやすい制度が構築され、また、教職員にとっても指導が行いやすい体制が整備された。

教職課程に関しては、履修者が近年増加傾向であり、本年度においては、全学年合わせて100名を超える学生が登録している。また、昨今は本学卒業後に教員免許を取得のために科目等履修生として学びを再開する者もあり、多くの学生が教員を目指して切磋琢磨する姿が見受けられた。令和4年度においては、9名の学生が教員免許状を取得し、そのうち、1名が千葉県内の中学校に正式採用されたほか、3名が小学校の講師として、1名が特別支援学校の講師として採用され、教職のキャリアをスタートさせた。また、既卒者についても、千葉県内の高等学校、中学校、小学校、及び東京都内の高等学校において合計6名が正規採用された。なお、教職課程では、星槎大学（神奈川県）と連携協定を締結しており、中高保健体育、小学校、特別支援学校の教員免許状取得への道をひらいている。現在約10名の学生がこの制度を利用しているが、入学時点から、星槎大学での履修を希望している学生も増えてきており、今後も教職課程履修者の適性にあわせた進路の多様化が期待できる。また、キャリアセンターにおいては、継続してきめ細かいキャリア教育を展開しており、同センターが開講している公務員試験対策講座、資格対策講座及び就職対策講座については、本年度も多くの学生が履修した。昨今は入学の段階から公務員を志望する学生が増加しており、目標を持って入学した学生達の夢を実現させるべく、各種試験対策講座の内容の充実に取り組んだ。これらの成果もあり、本年度の卒業生については、警察官をはじめ、行政職員、自衛隊幹部候補生等に41名の合格者を輩出することができた。これは、本学開学以来、最高の結果となっており、ここ数年にわたり、非常に高い水準の合格率を維持し、多くの卒業生を公務員として送り出したという実績は、「公務員（就職）の清和」というイメージを裏付けるには十分なものであったと実感している。また、昨今は女子学生の公務員志望者も増加しており、合格実績も確実に伸びてきていることは特筆すべき点である。就職内定率も95.9%と非常に高い水準を維持して

おり、本学のキャリア教育の成果がうかがえる。

また、本学では、地域連携活動として、木更津市と連携し、生涯学習市民公開講座を開講している。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、オンライン動画配信形式にて開催することとなったが、本学教員によって開講された「法律」、「国際政治」、「情報」の分野についての講義は、いずれも多くの地域の方々に関心をもって視聴され、好評を得ることができた。また、一般社団法人木更津市観光協会（きさらづDMO）とも連携し、「フレッシュマンセミナー」、「教養演習（野外実習）」といった講義において、同協会の方々の協力を得ることができた。同協会からゲスト講師を招き、同協会の体験プログラムをもとに授業を展開することによって、木更津の地域性や魅力について理解を深めることに繋がった。また、陸上自衛隊木更津駐屯地の協力を受け、施設の見学、器機搭乗、隊員による講話など、地域にある自衛隊の仕事について学ぶとともに、学生達のキャリアサポートにも資する授業を展開することができた。

更に、本年度は、木更津市制施行 80 周年を迎える年に当たり、「20年後（100周年）の木更津市がどのようなまちであってほしいか」を市民の皆さんと考える「きさらづ未来会議」に本学学生6名が参加した。この会議の中で20年後の市の未来像とその実現に向けた道筋を描いた「きさらづ未来ビジョン」が取りまとめられ、11月に開催された木更津市市政80周年記念式典において本学の学生が市民を代表し、同ビジョンを発表した。

② 清和大学短期大学部に関する事項

本年度もコロナ禍でのスタートとなったため、入学式は、保護者、来賓の方々に出席いただくことはできなかったものの、厳粛な雰囲気の中で新入生を迎えることができた。

授業については、授業形態は前期、後期ともに対面を基本としたが、一部授業ではオンラインを併用することとなった。大学での履修方法や専門的な教科の学習に戸惑いを感じている新入生や、オンライン授業について不安を抱いている学生に対する支援を目的に、専任教員が担当する科目については基本的に対面での実施に努め、できる限り学生達への影響が少なくなるように配慮した。

2年次生の教育実習をはじめ、1、2年次生の保育所及び施設での実習は概ね学事日程通りに実施することができたが、コロナ禍の影響で一部の園からは、実施時期の延期や教員による実習先訪問の代わりに、電話での対応を求められたこともあり、それぞれの対応に苦慮した面もあった。そんな中、貴重な実習の機会をより有効に活用すべく、本年度も実習に際して、事前指導及び事後指導の徹底を推進した。全教職員が一丸となって、学生一人一人に対してきめ細かい指導を行った結果、本年度卒業生77名のうち、幼稚園教諭二種免許状取得者64名、保育士登録資格者65名という

成果を残すことができたことに加え、多くの卒業生たちがそれぞれの免許・資格を活かし、幼稚園、保育所及び施設等からの内定を得ることができた。

本学の特色の一つである、1年次生全員を対象とした「学外実習 館山集中授業」は、本年度も内容の大幅な変更を余儀なくされた。この学外実習は、1年次生の卒業必修科目である「レクリエーション実技Ⅰ」を集中授業形式で実施しているものであり、本来は館山市にて2泊3日で開催されていた。新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊を伴う実習は困難であると判断したが、できる限り同等の学修成果を得られるものを学生達に提供すべく、代替授業を5月25日から5月27日までの3日間の日程で実施することを決定した。初日と3日目は学内で「遊び体験の企画と実践」及び衣装制作と振り付けに創意工夫を凝らした「ファッションショー」を、2日目は千葉県立君津亀山少年自然の家に教場を移し、「竹クラフト体験と天体観察（プラネタリウム）」を行った。3日間を通して、当該授業の研鑽に努めることができただけでなく、学生と教員、学生同士が交流を図る貴重な機会となった。この集中授業の成果は、参加学生の振り返りシート等により確認することができた。

また、本年度も学園祭（清和祭）は中止せざるを得なかったが、代替として12月15日、16日の2日間に附属八重原幼稚園、畑沢幼稚園、金田幼稚園の年長児を対象としたニコニコフェスティバルを催行することができた。このフェスティバルを楽しみにしている幼稚園児の期待に応えるべく、造形表現を活かした装飾を施し、子どもたちが楽しめる環境づくりを行った。「ダンボール迷路」「ワニワニパニック」「ボウリング」など、学生達が工夫を凝らし、子ども達が楽しめる企画を立案した結果、校舎内外はまるでテーマパークの様相を呈し、来場した約200名の園児達の楽しそうな笑顔や歓声に包まれた。

平成11年度から実施している「卒業記念発表会」は、コロナ禍で、ここ数年は規模を縮小して実施を余儀なくされていたが、本年度は、4年ぶりに保護者、在学生が参観のもとで催行することができた。ハンドベル演奏、ピアノ独奏、器楽アンサンブル、声楽アンサンブル、身体表現、合唱、造形作品展示等、研鑽を積んだ学生の成果に会場からは惜しめない拍手が送られた。

本年度においても、地域社会に対する社会貢献の一環として、本学教員は地域の各種委員会の委員として委嘱を受け、教育委員会や子ども子育て会議等に出席するとともに、様々な講演会の講師も務めた。また、学生の地域貢献としては、例年ハンドベル部が積極的に活動している。ここ数年は新型コロナウイルス感染症により外部からの依頼が激減していたが、本年は制限の解除に伴い近隣の保育所、障がい者施設、児童養護施設、地域の催事等から招聘を受けた。学内でのクリスマスコンサートも令和元年以来久しぶりに開催され、多くの方々に美しく澄んだハンドベルの魅力を伝えることができた。

③ 木更津総合高等学校に関する事項

本年度は、昨年度よりも入学者が約100名増え、703名の新入生を迎えてのスタートとなった。新型コロナウイルス感染対策についても、3年目を迎え、様々な工夫を凝らしながら、多くの学校行事等を実施することに努めた年となった。体育祭や文化祭については、昨年度から再開することができたが、修学旅行については、実に3年ぶりの開催となった。感染症の拡大が懸念されていたものの、一般コースは京都、兵庫、広島方面へ、特進コースは沖縄へ4泊5日の修学旅行を無事に実施することができた。

学習面においては、本年度も、生徒の基礎学力の充実、学習態度の向上に加え、生徒同士の良好な人間関係の構築のための取り組みを行った。基礎学力の向上については、株式会社ベネッセが開発した「マナトレ」というテキストを活用しており、英語、数学、国語の3教科について、義務教育レベルの学習内容について改めて理解を深めることによって学力の底上げを図っている。さらに、朝のホームルーム後の時間を活用した、数学、漢字、英語のミニテストについても継続して実施し、基礎学力の定着を図った。また、本年度も、5月と1月に、2週間ずつの「学習態度向上週間」を設定し、生徒の学習態度の向上を促すと共に、全教員による授業の相互参観を実施した。授業については、各教室に配備されている電子黒板の活用が進んでおり、生徒達にとって分かりやすい授業を実施するための工夫が多数見受けられた。

部活動については、弓道部、陸上競技部、柔道部、ソフトテニス部、卓球部がインターハイ出場を果たした。また、硬式野球部は、4年ぶりの甲子園出場を目指し、第104回 全国高等学校野球選手権千葉大会に臨んだが、残念ながらあと一步届かず、決勝戦で無念の涙を呑むこととなった。文化部においても吹奏楽部が千葉県吹奏楽コンクールで優秀な成績をおさめる等の活躍が目立った。

その他、本年度は創立20周年記念事業の一環として、開校以来慣れ親しんできた制服を、新たな時代に対応すべく、リニューアルすることを決定した。「制服制定委員会」を立ち上げ、多くの教職員や生徒達からの意見も取り入れ、現行の制服イメージを踏襲しつつも、デザイン性や機能性の向上に加え、ジェンダーフリーの観点も盛り込んだ令和の時代にふさわしい制服の制定に向けて作業を進めている。新制服は令和6年度入学生より導入されることとなり、令和5年度も引き続き検討を行う予定である。

④ 市原中央高等学校に関する事項

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策も3年目に突入し、日本では新型コロナウイルス蔓延防止への対応が求められ続けていた。そんな中、社会では少しずつではあるが対策緩和の動きも見え始めていた。学校教育においても度重なる新型コロナウイルス感染の急増期への対応を実施しつつ、職員・生徒・保護者が共に協力して

学校教育を通常に近い状態に一步でも近づけて行こうと努力を重ねた年度でもあった。

具体的には、従来に引き続き、学校に来られない生徒に対して授業をオンデマンドで配信することやオンライン配信を利用して各種講演会、学校行事、生徒会行事を実施すること、また、保護者に対して進路講演会や入学式・卒業式などオンラインやオンデマンドで配信することなど ICT を活用した蔓延防止策を実施した。そんな中でも、夏の高校野球に関し、学校をあげて応援できたことや、限定的であったが文化祭の保護者への公開を実施できたことは、本校にとって明るい兆しとなった。このような取り組みは、在校生徒や保護者の満足度を高めるとともに、今まで以上にきめ細かな指導を徹底できる良い機会となった。

なお、本校を志望する多くの受験生とその保護者のニーズに応えるため、オンラインによる学校説明の配信や本校を会場とする各種説明会を実施した。特に本校会場の各種説明会については保護者会の援助も受けながら開催方法を工夫することによって、複数回の実施が実現している。このことについて本校保護者会の皆様に深く感謝する次第である。

本年度の進学実績は、名古屋大学、千葉大学、埼玉大学をはじめとする国公立大学に20名、私立大学についても、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学といったトップレベルの大学をはじめ、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学等の難関大学を含む多くの大学に延べ607名の合格者を輩出することができた。昨今は進学指導の一環として、東京都を中心とした21大学の大学教員を迎えての模擬授業や大学入試説明会を開催しており、生徒の進路意識や大学選択への意識向上に役立っている。

また自律した英語学習者の養成を目指し、英語4技能対策アプリ **ELST** や英文エッセイライティングの採点・添削をAIが行う **AEES** など、ICT を積極的に授業に取り入れている。学習到達目標の「**CAN-DO** リスト」を学校独自に設定し、卒業時により多くの生徒が英検2級以上の資格取得ができるよう、様々な形での学習支援を行なっている。また、外国人講師と日本人教員によるティームティーチング体制を拡充することで、生徒一人一人の英語学習意欲も高まってきたと感じている。さらに、オーストラリアにある姉妹校での海外研修旅行、福島県ブリティッシュヒルズでの英語宿泊研修、東京青海にある **Tokyo Global Gateway** での英語体験研修も実施し、どの生徒にも英語が通じる喜びと異文化体験の機会を提供している。

グローバルリーダーコースでは、新たにアーティストやビジネスリーダー、研究者など、第一線で活躍するグローバルリーダーから学ぶキャリア研修 **inspirehigh** を導入したほか、**SDGs** をテーマに外国人講師と1対1で問題解決に向けたディスカッションを行う、オンラインによる英語探究学習など、他に類を見ない魅力ある授業を展開している。さらに、次年度は世界大学ランキング、アジア1位のシンガポール国立大学での海外研修旅行の実施も予定されており、豊かな感性と幅広い教養を身につけた、

国際社会をリードできる人材をより多く輩出できることを目指している。

部活動については、運動部、文化部ともに活発で、学業と部活動の両立に努め、有意義な学校生活を送られており、充実した活動を展開している。そのような中、サッカー部が第101回全国高校サッカー選手権大会千葉県大会でベスト8、硬式野球部が第104回全国高等学校野球選手権大会千葉県大会ベスト16という素晴らしい成績をおさめた。また、放送委員会は第69回NHK杯全国高校放送コンテスト千葉県大会で創作テレビドラマ部門において優秀賞に輝き全国大会に出場した。こうした生徒の活躍に学校内外からも大きな期待が寄せられている。

⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響は残っていたものの、感染対策等に万全を期し、各行事等については、概ね予定通り実施することができた。日常保育においては、本年度も、本学の教育目標である、「真心教育」を中核として、園児の生きる力の基礎となる豊かな心情や意欲、関心、態度を育てることを目指して日々の活動を実践してきた。日常指導における重点項目として、主に以下の6つの項目があげられる。

- (1) 特殊な教育・領域に偏ることなく、常に幼児の心身の基礎が調和的に形成されるよう指導と援助を行うこと
- (2) 園児の生活経験に即した、わかりやすい指導を行うこと
- (3) できるだけ自分の力でできるように方向づけて、園児一人一人の創意が活かされるように取り組むこと
- (4) 人間として、豊かな情操、力強く生きる力を身につけられるような活動を行うこと
- (5) すべての領域において小学校教育との関連を保ち、小学校につながるような指導を行うこと
- (6) 併設大学・高校と一体化を図り、大学附属幼稚園ならではの体験を展開すること

特に、日常保育の中では、自然の変化や季節の行事にあった指導計画を作成し、幼稚園教育要領に示された五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について、いずれも偏ることなく、調和のとれた指導を行うことを目指し、週案作成の段階から意識して取り組むことを実践した。また、園児の生活経験に則した分かりやすい指導を心がけた。一人一人の個性を見極め、個性にあったスモールステップでの指導援助を実践した。挨拶、手洗い、排泄、片づけ、食事といった基本的な生活習慣についても、可能な限り自分の力でできるように方向づけて、できる喜びを感じさせるような指導に努めた。特に、人の話をしっかりと聞くこと、人前で話をしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように、小グループでの話し合いの機会を積極的に取り入れている。この取り組みの効果もあり、卒園までには多くの園児が「話し合う」とい

うことを理解し実践できるようになってきたと感じている。

本年度においても、併設校との連携を強化し、高等学校や短期大学の教員による体育教室、英語教室、造形教室、ICT 教室を展開することができた。体育指導については、子ども達の発達段階に即したプログラムを構築しており、身体を動かすことの楽しさを教えながらも、運動遊びを通じて社会性や協調性を育てることを目標としている。また、外国人講師による英語指導は、ただ単に英語を学ぶだけでなく、英語で遊んだり、異なる文化を体験し、国際感覚を身に付けてもらうことを趣旨としている。昨年度からスタートした短期大学部の講師による「造形教室」においては、作り、作り直すというトライ&エラーを繰り返す体験を経て、色々なモノゴトを発見し、完成や創造力を育むことができています。また、「ICT 教室」についても、昨年度からより一層充実したプログラムが展開され、ICT 教育に触れる機会を設けるだけでなく、10年後を見据えた思考力の土台作りを行っている。

保健サポート面においても、短期大学部から臨床心理士の資格を有する先生や、看護師の先生が定期的に来園してもらえる体制を構築しており、子ども達の心と体の発育をサポートするとともに、保護者の方々の育児相談や、教員に対する適切な助言等を実施することで、教育の質の向上につなげることができた。

また、八重原幼稚園及び畑沢幼稚園においては、令和5年度より「認定こども園」に移行することを目指しており、本年度はその準備に取り組んだ年であった。株式会社船井総合研究所の協力を得て、こども園開設に向けての制度設計等に取り組むとともに、全教職員を対象とした勉強会等も開催したことによって、認定こども園についての理解が深まっただけでなく、教職員の意識改革に繋がったと実感している。

認定こども園へ移行することにより、保育時間の拡大や土曜日の預かり保育等も実現することとなり、両親ともに働いている家庭にとっても安心して子供を預けられる幼稚園として存在意義が高まることが期待されている。

2、研究に関する事項

① 清和大学に関する事項

令和4年度における清和大学の共同研究として、以下の研究課題についての研究が行なわれた。

(1) 教員採用試験の分析に基づく教職カリキュラムの改善 (3年計画の3年目)

また、清和大学法学会では、研究紀要を発行し、教員の研究発表の機会を提供している。なお、本紀要は国立国会図書館、地方自治体図書館、各大学附属図書館等全国約230施設で活用されている。

法学会主催の研究報告会については、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全ての報告会が中止となったが、本年度は、専任教員全員が順番に自己の研究内容を発表し、各教員の専門領域における研究活動の促進並びに教員の相互啓発を図る貴重な機会となった。

令和4年度の競争的資金等に係る研究は、次のとおりであり、当該研究者は、積極的に研究課題に取り組んだ。

○科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (独立行政法人日本学術振興会所管)

- 1 研究者：小松 伸之 (基盤研究(B)(一般)/3年計画の3年目)
研究課題：18歳市民力を育成する社会科・公民科の系統的・総合的教育課程編成に関する研究
- 2 研究者：酒本 夏輝 (基盤研究(C)(一般)/3年計画の2年目)
研究課題：運動習慣が注意資源配分機能に及ぼす影響
- 3 研究者：吉田 直起 (基盤研究(B)(一般)/3年計画の1年目)
研究課題：コンタクト・ゾーンの紛争処理
- 4 研究者：小野上 真也 (若手研究)/3年計画の3年目)
研究課題：受罰主体拡張法理の研究
- 5 研究者：酒本 夏輝 (若手研究/3年計画の3年目)
研究課題：運動実行に対する教示方法の違いが脳内情報処理過程及び運動出力に与える影響
- 6 研究者：松岡 東香 (基盤研究(C)(一般)/3年計画の3年目)
研究課題：避難訓練および防災教育用サイン教材データベースの開発
- 7 研究者：大木 雄太 (研究活動スタート支援/3年計画の1年目)
研究課題：自己選択による注意の焦点づけが遠投の学習に与える影響

② 清和大学短期大学部に関する事項

令和4年度の研究活動としては、本学研究委員会で編集した紀要第51号を令和5年1月31日に発行している。その内容は下記の通りである。

<論文>

- ・「SOSの出し方に関する教育」における心情的理解に重点を置いた中学校道徳教材開発
柴田克特任教授
- ・地域と育むアート活動についての一考察
～大正期の竜丘小学校自由画教育運動と地域との関わりに着目して～
前沢知子専任講師
- ・「児童福祉」の用語変遷にみられる学的課題に関する一考察
宗政朱利専任講師
- ・三島小学校の音楽教育の様相
～昭和前期の事例～
鈴木希実助教

<授業研究>

- ・保育者養成校の身体表現科目における手あそびうた活用の可能性
～誕生月にまつわる手遊びの創作に関する実践報告～
仁科幸専任講師

<実践報告>

- ・学習方略の変容を促す認知カウンセリング
桜井典章非常勤講師

また、各教員の所属学会等における研究活動については下記の通りである。

- ・「震災支援：福島の子どもの現状と発達支援」pp205-212「教育問題の心理学 何のための研究か？」 共著 福村出版
令和4年8月 後藤紗織准教授
- ・コロナ禍における清和大学短期大学部の教育実習の取り組み状況と課題について
関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会第4部会研究会
令和4年9月 佐々木竜太准教授
- ・幼児の規範意識の芽生えについての考察
～友だちに「注意」する行為に着目して～（単独発表）
日本保育学会第75回大会ポスター発表
令和4年5月 中島緑専任講師

- ・保育者養成における新型コロナウイルス禍での保育・幼稚園教育実習中止に伴う代替授業と授業外における学生指導と対応～学生対象アンケート分析を中心に～（共同発表）

日本保育学会第 75 回大会ポスター発表

令和 4 年 5 月 中島緑専任講師

- ・特別な配慮を要する乳幼児に寄り添う絵本の選び方と読み聞かせ
～これからの絵本と子どもとの関わり方とは～（共同発表）

日本保育学会第 75 回大会自主シンポジウム

令和 4 年 5 月 中島緑専任講師

3、キャンパス等充実に関する事項

令和4年度におけるキャンパス等の充実に関する事項としては、清和大学における武道場（真武殿）の空調機器設置工事、市原中央高等学校における進路指導室（キャリアセンター）の増築、グローバルリーダーコース実習室の更改及び木更津総合高等学校における教職員用の駐車スペースの整備などがあげられる。大学の武道場においては、多くの学生が長時間活動している状況下で熱中症対策の観点から実施されたものであるが、学生の健康面だけでなく、キャンパスアメニティの充実といった側面もあり、学生募集上の観点からも有用であると考えられる。市原中央高等学校においては、校舎のピロティであったスペースを有効に活用し、新たにキャリアセンターが設置され、また、進路アドバイザーも配置されたことによって、同校の進学指導体制の充実が期待されている。

主な機器備品等の設備状況については、市原中央高等学校におけるネットワーク機器及びコンピュータ教室の更改、木更津総合高等学校におけるコンピュータ教室の更改があげられる。いずれの高等学校においても、定期的にコンピュータ機器の更改を実施しており、学習環境の充実に努めている。昨今は、高等学校へ入学する生徒に対し、1人1台端末を所有させ、様々な教育活動において活用させているが、そんな中においても、授業内容等によっては、コンピュータ教室での活動が必要とされており、今後も定期的な機器の更新を予定している。

その他の事業として、市原中央高等学校においては、教室等における照明について、全面的なLEDへの更新を行い、全ての教室のLED化が実現した。また、木更津総合高等学校においては、卒業記念事業の一環として、総合体育館（至真殿）2階フロアの水銀灯について、全てLED機器への改修を実施した。LED化により、電力使用量が大幅に減少することが予想されており、省エネ効果が期待でき、経費削減にもつながっている。また、スクールバスの老朽化の対策の一環で、木更津総合高等学校において大型バス（観光タイプ）の購入を行った他、各設置校においても、施設設備の維持管理上必要となる修理修繕を適正に実施した。

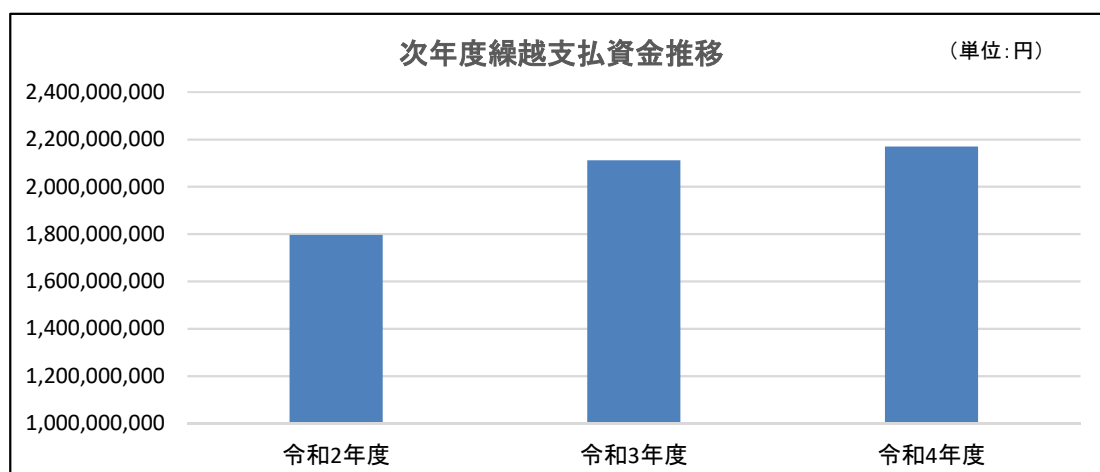
Ⅲ 財務の概要

1、財務の経年比較

①資金収支経年比較表

(単位 円)

<収入の部>			
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒納付金収入	2,589,859,500	2,498,555,400	2,492,881,850
手数料収入	71,545,914	73,027,488	71,817,058
寄付金収入	4,018,767	3,972,408	5,942,436
補助金収入	1,444,546,787	1,718,843,734	1,521,972,082
資産売却収入	297,867	23,361,645	970,526
付随事業・収益事業収入	234,701,225	268,452,733	272,268,035
受取利息・配当金収入	40,559	24,453	1,460,541
雑収入	311,991,208	239,755,239	231,260,854
前受金収入	446,431,350	428,265,550	394,163,850
その他の収入	463,253,027	454,306,375	400,871,081
資金収入調整勘定	△ 779,324,169	△ 725,442,022	△ 672,228,510
前年度繰越支払資金	1,718,563,460	1,797,002,083	2,111,889,985
収入の部合計	6,505,925,495	6,780,125,086	6,833,269,788
<支出の部>			
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	2,764,780,611	2,794,849,975	2,753,000,665
教育研究経費支出	1,189,393,789	1,128,692,916	1,137,711,357
管理経費支出	319,722,447	341,155,305	360,082,132
施設関係支出	415,179,607	70,582,000	89,573,028
設備関係支出	108,367,836	99,533,734	74,929,534
資産運用支出	18,489,463	3,518,080	0
その他の支出	403,347,930	663,598,560	631,053,964
資金支出調整勘定	△ 510,358,271	△ 433,695,469	△ 383,031,415
次年度繰越支払資金	1,797,002,083	2,111,889,985	2,169,950,523
支出の部合計	6,505,925,495	6,780,125,086	6,833,269,788



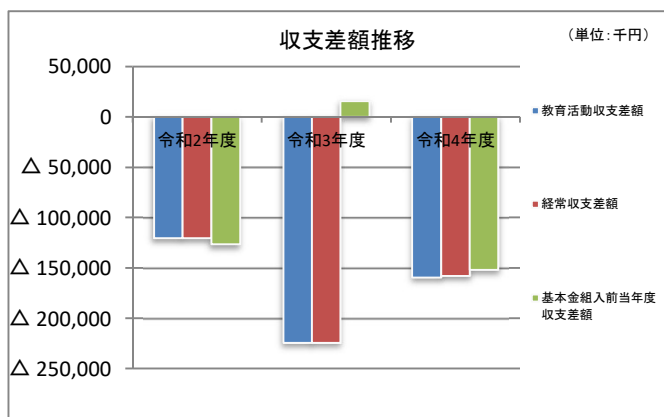
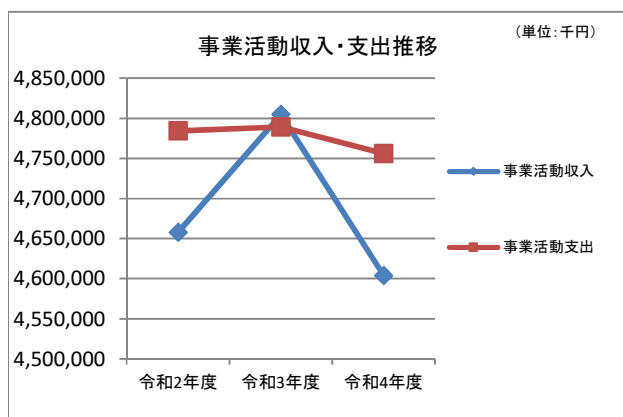
②事業活動収支経年比較表

(単位 円)

		科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,589,859,500	2,498,555,400	2,492,881,850
		手数料	71,545,914	73,027,488	71,817,058
		寄付金	4,018,767	3,972,408	5,942,436
		経常費等補助金	1,432,185,787	1,450,200,734	1,520,721,082
		付随事業収入	234,706,458	268,458,312	272,273,101
		雑収入	312,177,433	239,229,546	232,676,983
		教育活動収入計	4,644,493,859	4,533,443,888	4,596,312,510
	支出の部	人件費	2,764,780,611	2,798,368,055	2,753,000,665
		教育研究経費	1,588,847,916	1,530,529,868	1,551,860,987
		管理経費	410,361,055	428,698,200	450,394,532
		徴収不能額等	938,700	160,000	510,000
教育活動支出		4,764,928,282	4,757,756,123	4,755,766,184	
教育活動収支差額		△ 120,434,423	△ 224,312,235	△ 159,453,674	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	40,559	24,453	1,460,541
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入	40,559	24,453	1,460,541
	支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外支出	0	0	0
教育活動外収支差額		40,559	24,453	1,460,541	
経常収支差額		△ 120,393,864	△ 224,287,782	△ 157,993,133	
特別収支	収入の部	資産売却差額	186,590	2,030,509	238,270
		その他の特別収入	13,017,150	269,168,693	6,016,083
		特別収入計	13,203,740	271,199,202	6,254,353
	支出の部	資産処分差額	0	31,051,282	0
		その他の特別支出	19,426,154	410,000	210,000
		特別支出計	19,426,154	31,461,282	210,000
特別収支差額		△ 6,222,414	239,737,920	6,044,353	
基本金組入前当年度収支差額		△ 126,616,278	15,450,138	△ 151,948,780	
基本金組入額合計		△ 424,983,526	△ 168,516,806	△ 27,858,050	
当年度収支差額		△ 551,599,804	△ 153,066,668	△ 179,806,830	
前年度繰越収支差額		△ 7,768,968,550	△ 8,316,430,474	△ 8,218,018,436	
基本金取崩額		4,137,880	251,478,706	2,033,504	
翌年度繰越収支差額		△ 8,316,430,474	△ 8,218,018,436	△ 8,395,791,762	

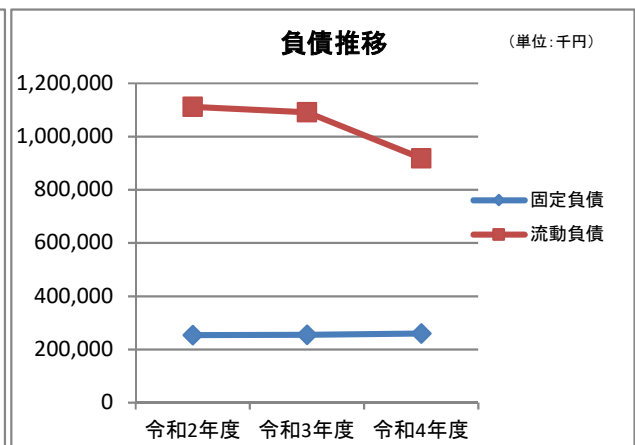
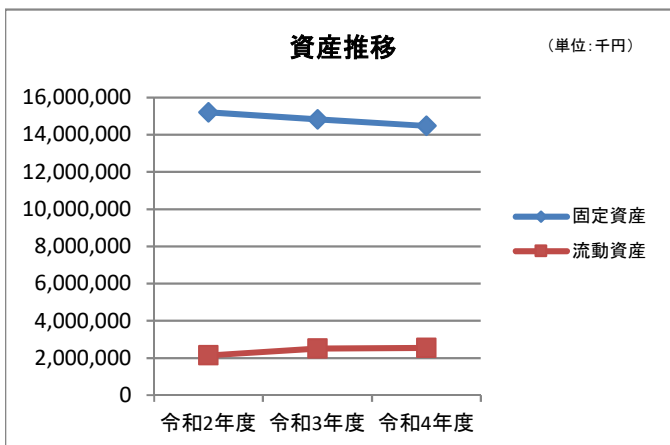
(参考)

事業活動収入計	4,657,738,158	4,804,667,543	4,604,027,404
事業活動支出計	4,784,354,436	4,789,217,405	4,755,976,184



③貸借対照表経年比較表

資産の部			
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	15,209,771,175	14,834,195,583	14,478,298,373
有形固定資産	14,582,717,536	14,210,265,795	13,871,822,524
土地	3,547,820,239	3,530,305,748	3,530,305,748
建物	8,837,316,354	8,504,089,032	8,236,369,922
構築物	1,095,078,338	1,055,643,298	1,018,051,354
その他の有形固定資産	1,102,502,605	1,120,227,717	1,087,095,500
特定資産	590,144,941	593,663,021	587,481,809
その他の固定資産	36,908,698	30,266,767	18,994,040
流動資産	2,140,806,762	2,512,457,644	2,548,739,773
現金預金	1,797,002,083	2,111,889,985	2,169,950,523
その他の流動資産	343,804,679	400,567,659	378,789,250
資産の部合計	17,350,577,937	17,346,653,227	17,027,038,146
負債の部			
科目名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定負債	253,722,701	255,048,059	260,180,041
流動負債	1,111,976,160	1,091,275,954	918,477,671
負債の部合計	1,365,698,861	1,346,324,013	1,178,657,712
純資産の部			
科目名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基本金	24,301,309,550	24,218,347,650	24,244,172,196
第1号基本金	24,005,309,550	23,922,347,650	23,948,172,196
第4号基本金	296,000,000	296,000,000	296,000,000
繰越収支差額	△ 8,316,430,474	△ 8,218,018,436	△ 8,395,791,762
翌年度繰越収支差額	△ 8,316,430,474	△ 8,218,018,436	△ 8,395,791,762
純資産の部合計	15,984,879,076	16,000,329,214	15,848,380,434
負債及び純資産の部	17,350,577,937	17,346,653,227	17,027,038,146



2、借入金の状況

借 入 金 明 細 票

自 令和4年 4月 1日
至 令和5年 3月31日

(単位 円)

借入先		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	備考	
長期借入金	公的金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	市中金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	その他								
	小 計	0	0	0	0				
	計	0	0	0	0				
	短期借入金	公的金融機関							
		小 計	0	0	0	0			
		市中金融機関							
小 計		0	0	0	0				
その他									
小 計		0	0	0	0				
返済期限が1年以内の長期借入金		0	0	0	0				
計		0	0	0	0				
合 計		0	0	0	0				